

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	東部地域療育センターぼけっと		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 9日		2025年 1月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2024年 12月 26日		2025年 1月 29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 25
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地域療育センターであるため、事業所内で多職種連携が可能であること。特に、PT,OT,STなどのセラピストが日常生活やあそびの場面を共有し、ケース検討を実施することができる。相談支援事業所もセンター内にあるため、保護者の同意を得たうえで情報共有がしやすいため、相談に対して迅速な対応が可能であること。	通園部職員とハピリススタッフによる連携会議を定期的実施し、子どもの課題など情報共有に努めている。また、年間を通じて療育センター全職員によるケース検討を実施し、多職種の意見交換も含めて困難事例、とらえの難しいケースについて検討会を実施している。	ケース検討の実施方法について意見交換し、子どものとらえを深められること、連携強化を図る。セラピーの予約について、通園部が日程と課題を把握し、保護者の同意を得て情報の共有をさらにすすめていく。
2	生活年齢を大切に集団作りや活動を行っている。	5歳児は年長児としての活動を計画し、地域の保育園と田植えや稲刈りなどの交流行事を実施。また、単独での宿泊療育を実施している。また、2歳児は給食時間や午睡時間を早めるなど年齢を意識した日課を大切にしている。	引き続き生活年齢を大切に、日課や行事を計画、実施していく。子どもだけでなく、親子の場面でも生活年齢での集団を大切に親子のとりくみや保護者研修を実施していく。
3	家族行事を積極的にとりくんでいる。また、家族行事を実施する際は、きょうだい支援も意識的にとりくんでいる。	保護者が我が子のかわいいところを見つけられること、一緒にあそんで楽しかったという実感が持てることを大切に、園外に出かける海水浴やそり遊びなどの行事も含め、積極的に家族行事を実施している。まとめの行事の際は、学齢期と幼児期でグループ分けを行い、きょうだい保育を実施している。	親子通園の場面での親子あそびがコロナ禍でできなくなった後、まだ完全には戻していない。今後、意識的にそういった場面を大切にしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	BCPの職員への周知がまだまだ不十分であること	BCPに限らず、事故防止、防犯などのマニュアルも周知が進んでいない。作成していても、ファイルが見やすい場所がないため、日常的に確認がしづらい状況がある。	全ての職員が必要な時にすぐ確認できるよう、わかりやすい場所に保管する。
2	避難訓練は毎月実施しているが、同じ内容になりやすい。	通園部のみでの避難訓練だけでなく、マニュアルで規定している消火班、救護班などセンター全体での避難訓練の実施が課題である。	法人の防災委員会とも連携し、全職員での避難訓練を実施する。また、担当者だけでなく、職員全員が備蓄や予備電源について把握できるようにする。
3	10年が経ち、経年劣化が進んでいる箇所が出てきている。	園庭や築山を覆っていた砂が雨などで流れ、大きな石が広範囲に渡って露出している。職員が石を拾っているが、追いつかない状況がある。	新たな土や砂を入れて、園庭の整備を計画的に実施する

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 東部地域療育センターぼけっと

公表日 2025年 3月 27日

利用児童数 年 月 日 回収数 23 / 42

	チェック項目	回答状況				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	22	1			・広いホール、広い園庭でのびのび遊ばせていただいています。 ・園庭が広く、のびのびと過ごせています。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	14	7	1	1	・手厚く見ていただいていると思います。 ・十分だと思えます。 ・多いので助かっています。 ・確認できていません。 ・先生はたくさんいらっしゃいますが、大変そうなのでもう少し人数がいるといいのかなと。 ・もう一人配置数を増やしてほしい。 ・子どもたちは元気いっぱいなので、先生方が大変そう。	・親子通園日や行事などで保育の様子を見ていただける機会を大切にしています。ご心配なことなどありましたら、どうぞ職員にお伝えください。 ・どのお子さんにも過ごしやすい環境で丁寧に関われるよう、今年度は国、名古屋市の基準より多い職員で保育をしています。引き続き職員増の要望を国、名古屋市に伝えていきます。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20	1		1	とても分かりやすいと思います。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20	3			・何か落ちていたり、汚れている時はすぐに職員の方が掃除しているので清潔です。 ・毎日、きれいに整えていただけており、ありがたいと感じている。 ・ほこりやダニが気になることがあります。	・毎日の保育前、保育後、また長期休みに入る前など、汚れなど確認し丁寧にそうじをします。保育で使用するタオル類は専門業者で選択、交換、またキルティングなどの敷物は清潔を保てるよう洗濯、乾燥を徹底しています。 ・午睡時に使う布団については、月曜日にご家庭からお持ちいただき金曜日にお返ししており、お返しできなかった週末はお布団を広げています。今後、レンタルを含めて検討いたします。
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	19	2		2	・困りごとの改善が進まない。 ・難聴児に対する理解度を上げ、親にアドバイス等してほしい。 ・切り替えが苦手な子どもが気持ちを納得させるヒントをたくさんいただいています。 ・普段からとても（子どもを）観察して下さっていて、（子どもに）どう声を掛けたらいいのかと親と同じくらい理解して下さいます。	・連絡ノートを含めご相談を受けた際は必ず担当が対応し、解決に向けて主任、園長で対応しています。さらに迅速な対応に努めます。 ・今年度、ハビリによる保護者研修での事前アンケート、感想用紙に書いていただいた際の対応が十分ではありませんでした。お子さん、ご家庭の状況についてハビリスタッフとの連携を密にし、より丁寧な対応
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	20			2		
	7 子どものことを十分に理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	23					ありがたいことに、本当に子どものことを十分に理解していただいています。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19	2		2		支援計画の各項目、支援内容については記述を工夫し、分かりやすくお伝えできるように改善いたします。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	21	1		1		支援計画に沿った支援が行われていることについて、連絡ノートや面談などでお伝えできるようにと考えています。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	20	1	1	1	・様々なあそびが提案されていると感じる。 ・様々なプログラムがあって子どもの成長に良いと思います。	同じ活動を繰り返すことで子どもたちは見直しをもてることも大切に考えています。そのことと同時に、変化をつけることを意
11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	8	7	5	3	・保育園のお友達と遊ぶ機会を何回か作っていただいています。 ・年少ではないが年長ではある。 ・交流する子としない子がいる。 ・本年度初めて交流の場を設けてもらった。もう少し回数は多いとよいなと感じている。 ・全員には、順番が回ってこないのかな？年長にはあると聞きました。	園との交流については、お子さんの年齢、経験、課題を検討し対象児を決定しています。今後、機会を増やせるよう努めます。また、毎年実施しているわくわくフェスタでは、在園児さん、地域のお子さんがあそびの体験を共有できる場を大切にしています。	
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20	1	1	1	わすれてしまいました。	入園の際に、園長や職員からお伝えさせていただいています。ご不明なこと等、いつ
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22	1				
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	22	1			・子どものことを水曜日の親子登園などで話し合うことができています。 ・研修でいろいろな話を聞けてとても参考になっています。	

保護者への説明等	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていると思いますか。	23				・子どもを水曜日の親子登園などで話し合うことができます。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	2				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	21			2	・共感的とは ・共感的にの意味がわかりません。具体的に質問してほしいです。 ・いつも温かく接して下さり、大変感謝している。 ・いつも優しく対応していただいています。 ・いつも相談に乗っていただいています。	質問の文章はサイトからそのまま引用しています。わかりづらい部分は今後改めます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	20	1		2	・きょうだいへの支援があるため、きょうだい本人もほげっとへ行けることを楽しみにしており、親としてとてもありがたいと思う。 ・十分にされていると思います。	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	17	3	1	2	・対応が早いので、いつも何かあれば何でも相談しています。 ・相談に対する回答がないことが多い。	・相談については複数人でお聞きしたり、あらかじめ場所、時間を決めた場を設けること、回答をする日を決めることを、職員に周知し、対応させていただきます。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22			1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	16	4	2	1	・きずなネットで出欠確認ができると保護者に楽。 ・自己評価の結果はよくわかりません。	・行事の出欠などのおたよりについては基本的に印刷物を配布させていただき、長期のお休みなどの事情がある方はきずなネット職員全体で、引き続き個人情報の取扱いについて十分に留意することに努めていきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20	3				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	4	1	3	訓練実施の有無については不明です。	感染症および緊急時対応については入園時に配布させていただいていますが、さらに必要な情報を周知できるよう努めます。訓練を予定している日は園だよりでお伝えし
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18	2		3		上に同じ
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14	3		6		上に同じ
満足度	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19	3	1		・ほんの少しの怪我でもしっかり説明と連絡があるのでとても助かります。 ・ちょっとした怪我でもすぐ連絡くれました。 ・発生後のケアはしていただいているが、お迎え時の連絡になることが多く、遅いと感じることがある。	・けがなどの連絡については発生時にご連絡をさせていただいています。転倒などで特に処置の必要がなかった場合はお迎え時の連絡になっていましたが、現在はどのような状況でも発生時にご連絡をさせていただいています。
	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	23				・居心地の良い場所と感じているはずですが。 ・毎日楽しく通えています。今日〇〇したと話す姿が見えてうれしいです。 ・担任以外の先生方にも興味が広がってきた子どもの様子を見ると、安心できる場になっていると感じる。	
満足度	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	23				・ほげっとが大好きで毎日楽しみにしています。 ・楽しんでいます。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	22	1			・大満足です！ ・本当に楽しんでいます。	その他：保護者のみなさんの評価を力に変え、よりよい事業所づくりに努めていきます。そのためにも、事業所評価のグーグルフォームの利用を検討するなど回答回収率を上げられる工夫の検討をさせていただきます。

	公表	事業所における自己評価結果
--	----	---------------

事業所名 東部地域療育センターぼけっと

公表日 2025年 3月 27日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	25		定員を超えて子どもを受け入れているため、保育室に余裕がないと感じられるクラス、場面もあるが、その日の保育内容や子どもたちの状況で必要なもの、必要なスペースを考え、活動を作るようにしている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	25		基準の配置では難しいと感じている。基準以上の配置した上で、子どもたちの出席状況によって職員の配置を工夫している。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	25		マットなどを使用して着替えやおそびのスペースがわかりやすくなるように工夫している。絵、マーク、写真などを用いて子どもたちにわかりやすく伝えられるように工夫している。園庭から保育室までは階段になっているが、スロープや手すりも設置されている。5つある保育室のうち、2つの保育室に床暖房があるが、共有している全体の場にはなく、必要に応じて敷物やセラピーマットなどで対応している。	テラスからの段差は、子どもたちが行きたい時に園庭に出られること、安全に過ごせるような工夫がさらに必要だと感じている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	25		職員同士で意識し合い、清潔で、心地よく過ごせるよう努めている。特に肢体重複クラスでは毎朝床やマットの消毒を行っている。子どもたちの降園後、掃除業者に入ってもらっている。クラスの子どもたちの姿から、リュックやタオルをかける場所、机やイス、着替えや集う場所など環境設定を考えて配置している。また、子どもたちのその日の活動に応じて環境設定を変えることもある。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	25		職員が子どもたちの気持ちを受けとり、子どもたちがその時に安心できるように共有スペースのホールや園庭など活用している。発熱時には他の子どもと隔離できる部屋がある。	体調不良の際の個別化について、設計上の静養室はホールに面して設置されているが、現在は保護者の方のお迎えに配慮し、保護者控室を使用している。
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	24	1		会議、話し合いができる場はあるが、PDCAサイクルについてさらに共有に努めたい。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	25		業務改善につながるよう努力している。会議などで全職員が共有し話し合う時間をもち、よりよい運営ができるように努めたい。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	25		職員の状況に応じて、園長と面談し、意見を伝えられる機会を設けている。法人全体では、1年目研修、3年目研修、中堅研修など経験年数が近い職員同士が意見を出し合う場を設けている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	25	1	第三者による評価を行っている。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	25		自分が学びたい研修を「自主研修」として申請し受けることができ、参加費用などの補助がある。また、外部からの案内による研修にも積極的に参加できている。職場内では、事業所内の業務について、子どもの発達や摂食など子どもの捉えに関わることに ついて、音楽療法や絵本に関するものなど保育の向上につながることを主としてさまざまな研修がある。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	25			
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	25		家庭訪問（モニタリング）は複数の職員で行い、捉えを深められるようにしている。また、担当者が作成した児童発達支援計画案は、クラスの職員や園長と検討した上で児童発達支援計画としている。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	25		他職種の職員とも話し合い、多角的に子どもの姿を捉えられるように努めている。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	25		毎日の保育の中で子どもの姿を振り返りつつ、支援していく難しさを感じているが、クラス職員は、毎日30分のクラスの振り返りの時間を活用しながら、日々共有できるように努めている。クラス外の職員は、クラス保育に入った日のクラスの振り返りの時間で共有したり、子どもたちと関わったタイミングで伝え共有することを大切にしている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	25			
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	25			今年度変更があった部分については、ねらい、支援内容は変更を踏まえたものになっていたが書式がわかりにくかった点について来年度改善を行う。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	25		毎日30分のクラスの時間や月1回2時間のクラスの時間で、クラスの職員みんなで意見を出し合い決めている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	25		月案等で活動プログラムが偏らないようにしている。活動プログラムをくり返すことも大切にしているが、前回の振り返りにもとにねらいに変化をもたせて、アプローチの仕方を使う教材を工夫している。子どもの姿や体調、天候などに応じて活動プログラムを変更するなど、子どもたちにとってどうかということを大切にしている。	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	25		毎日30分のクラスの時間に話し合いをして検討し支援につなげるようにしている。	

関係機関や保護者との連携	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	24	1	全員で打合せをするところで難しさを感じている。あらかじめクラス日誌に記入し、確認できるようにしている。	時短による職員の出勤時間の違いやバスの添乗などで打合せに参加できないことがある中でも、その日丁寧にやりとりをすることを大切にしていきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	25		毎日30分のクラスの時間を設けている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	25		健康、生活、あそび、その日の子どもへの支援、家庭への支援等をクラス日誌を書き、振り返りやすくしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	25		年2回のモニタリング、送迎で直接顔を合わせてお話を伺いできる機会を大切にしている。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	25		必要に応じて、相談支援専門員、クラスの職員が参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	25		地域の保健センターとの連絡会に代表職員が参加し、連携を大切にしている。医療的ケア児の支援について、必要な関係機関と情報共有に努めている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	24	1	移行先の訪問を受け入れたり、こちらが訪問することを通して、情報共有と相互理解を大切にしている。訪問は移行後、5～6月に1度行くようにしている。保護者の方の同意の上で、お子さんの様子を記載した引継書を送付し情報共有をしている。	保護者からの要望があった場合、保育者が移行先への見学、面談に同行していることの職員間での共有を徹底する。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。 (28～30は、センターのみ回答)	25			
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	25		発達講座、現任研修、合同研修を行ったり、参加している。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	25		盛んにおこなわれている。	
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。 (31は、事業所のみ回答)	25				
31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	22		年長児の活動として、近くの保育園の年長児さんと一緒にバスで出かけ、田植え、稲刈りを体験することができた。地域の保育園に保育者2人と子ども2人などと、人数制限があるが、交流する機会を作っている。	交流保育の対象児について職員全体で把握できるよう報告、連絡を徹底する。また、経験していない職員もいるので、経験できる機会を作るようにしていきたい。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	22		日々の連絡ノートや週1回の親子通園日の機会を大切にしている。	自分自身の力量不足を感じることもあるが、共通理解に努力したい。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	21		親子通園日を活用して月1回程度の保護者研修を実施している。個々に対応できるように事前アンケートを実施するものもあり、受けた方には感想をいただき、実施の参考にしている。子どもの発達に関わるもの、関わり方の参考になるもの、生活に役立てるもの、保護者同士の交流を深めることにつながるものなど様々に実施している。	あらかじめ、年間予定や園だよりでご案内しているが、ご都合がつかず参加することができなかった保護者に対するフォローが足りないのではないかと感じている。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	25		入園時のオリエンテーションや契約時に説明を行っている。利用者負担等については園だよりなど書面でお伝えするようにしている。支援プログラムは作成時に子どもの捉えとともにひとつひとつ丁寧に説明するよう心掛けている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	25		年2回のモニタリングのほか、保護者の方と顔を合わせて話す機会を大切にしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	25			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	24		日々の連絡ノートや週1回の親子登園日を大切にしている。必要だと感じられた時には、時間を合わせてゆっくり話せる場をつくり、複数職員でお話を伺いするようにしている。	ご家族の状況を把握し、支援ができるようにしたいが、知識や経験不足があり難しいと感じている職員もいる。他の職員との連携をとり、全体として対応できるように、またそういった経験を積めるように努めたい。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	25		担当職員が対応できる体制を作っている。ご家族が集う行事の際には、きょうだいプログラムを設け、めんごやこま回し、折り紙など一緒にあそぶことを通じて交流が深められるよう努めている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	25		個別で懇談する機会を設け、クラス担任だけでなく園長や主任も同席して対応するようにしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	25		月1回、園だより、クラスだよりで情報を発信するほか、緊急な場合、急な変更などは必ずネットを利用している。特に、クラスだよりは子どもたちの写真をのせるようにし様子をわかりやすく伝えることができていると感じている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	25		留意できるよう、都度全体で確認、周知するようにしている。地域の方々へ事業所を開放するときには名前が写真が見えることがないように工夫したり、写真や動画を使用する際にはご家族に確認している。行事の際には注意喚起をしている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	25		普段連絡ノートや送迎の際のやりとりを大切にしている。必要に応じて個別で説明する時間をとったり、手紙や電話を使い丁寧に伝えるようにしている。お子さんとはわかりやすく伝えられるよう、言葉だけの伝えにならないように工夫している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	25		東部の法人事業所と一緒に、事業所を利用している子どもたちをはじめ、地域の子どもたち、ご家族があそびを楽しめるイベント「わくわくフェスタ」をほけっとで開催した。今年度、開催した緑ほけまつりは、隣の緑風さんと一緒に防災について考えることをテーマとしてイベントを平和公園メタセコイヤ広場で行った。また、ほけっとで行ったクリスマスコンサートは、事業所の利用者をはじめ、地域の方々にも楽しんでいただくことができた。	

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	20	5	月1回実施している防災訓練は園だよりで伝えているが、どのように実施しているか、丁寧に伝えることができていなかったと感じている。	整備したマニュアルを手に取りやすい場所におくなど工夫し、職員にも周知に努めます。 職員、利用しているお子さん、ご家族を含め、実際の動きに近い訓練を実施できるよう努めます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	25		毎月の防災訓練では、地震、火災の避難訓練は行っている。不審者訓練、救出訓練も想定してやってみる。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	25		書類を保護者に提出していただき、主治医の指示をもとにしたばけつとで対応を、保護者、クラス担任、看護師で確認しあっている。子どもの状況が変わった時は都度、3者で対応を確認するようにしている。発作がある子どもについて、バス乗車時の対応、保育室での対応、坐薬やプログラムの使い方などの研修を事業所内で実施している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	25		入園オリエンテーション、在園児健診、変更があった場合はその都度、保護者、医師、栄養士、看護師で確認している。個別のところでは、経験のない食材への配慮をしたり、今年度は宗教食にも対応した。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	23	2		安全計画の内容、研修や訓練について、全体へ周知が不足している部分を見直していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	22	3		安全計画の内容、研修や訓練について、全体へ周知が不足している部分を見直していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	25		ヒヤリハットがおこった際にはその日のうちに終礼で周知し、再発防止についての確認もしている。また法人の苦情解決委員会で第三者同席のもと、検討をしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	25		全職員を対象に研修を実施している。「虐待の芽」アンケートの実施。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	25		書類を作成し、保護者とクラス担任で確認している。支援計画に記載できている。	